

生物多様性からみた持続可能な天然資源としての染料・薬用植物と天然繊維

～種の存続と人間の生産活動の持続可能性を求めて～

主催：特定非営利活動法人 アースネットワーク

共催：天然染料顔料会議

会場：地球環境パートナーシッププラザGEIC（東京都渋谷区、国連大学1階）

天然の植物・動物を原料とする以上、そこに必要な適切な技術も必要である。

不適切な技術（例えば、大量生産）を無暗に適用することは、種の絶滅危機をもたらす。

天然資源と生産活動のツールとして、持続可能な技術について考えて見ましょう。

なんのための効率向上、誰のための大量生産なのか・・・・・・・・

会期：12月3日(水)～26日(土)10:00～19:30(土曜～17:00)、日・月・祝日・第4金曜休

○資料展：発表ポスターやテキスト、画像や映像、植物等実物、それを材料に制作した作品

- 1 北海道での紫草、黄檗、甘草などの栽培と染料・生薬利用(北海道医療大学北方系伝統薬物研究センター)
- 2 祝島の循環型農業の再生、日本茜の調査と試験栽培(氏本農園、民宿くにひろ他)：島の木と茜の工芸
- 3 蚕のインセクトテクノロジー(東京農業大学昆虫学長島研究室)
- 4 群馬の養蚕の歴史、富岡製糸工場、繭～生糸が出来るまで、蚕の生体、座繰りの仕組み(日本絹の里)
- 5 香川、徳島での藍についての新しい取り組み：蓼藍の沈殿藍作りとその利用(藍色工房)他
- 6 九州の藪椿の保全と利用：染色分野との共同＝染色媒染用椿葉灰作り、椿油の搾油
- 7 マダガスカルの野蚕(杉本星子、京都文教大学)の生態系保全と自立支援活動
- 8 ブータンのラック染料(都甲由紀子、お茶の水女子大)の研究と紹介
- 9 中東絨毯のメンテナンス、修復のための染色(株式会社大成コーポレーション)
- 10 世界の天然染料資料と解説、染料顔料を使った作品(牛田智、角寿子、矢出尚子)
- 11 Journal of Dye & Medicinal Plants(染料薬用植物ジャーナル) ISSN1884-5320
- 12 北の藍染織工房(植物染資料制作)、工房はんのき(植物染料顔料の型染め)
- 13 天然染料顔料会議 「天然の色」(機関誌)

○サイエンスカフェ：12月5日(土)15:00～16:30 枇杷茶、染材料代1,000円(定員30人)

テーマ：「島の生物多様性と放牧豚と日本茜プロジェクト」

パネラー：氏本長一氏(祝島氏本農園主)

植物生態の解説：庄山紀久子氏(北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター、生態学)

進行と染織技術実技解説：角 寿子(NPO法人アースネットワーク、染織)

人口500人の瀬戸内の祝島で、島民が使った野菜のくずや出荷しない枇杷だけを餌にし、休眠畑に豚を放牧して草を食べさせることで豚によって開墾し、放牧豚として契約レストランに出荷している氏本農園の環境保全型農業の未来への構想を氏本氏に語って頂き、生物多様性を活かした取り組みについて生態学の立場から庄山氏に説明をいただきながら参加者と祝島をサイエンスする。また、島中に自生する染料植物の日本茜や山藍の保全を島の天然資源として栽培を始めた「祝島茜プロジェクト」、アースネットワークとの協働による持続可能な技術について考える

*19:00～食事会（会場：麻布 エピスカネコ、定員15人） --- 満員になりました。

「持続可能なレシピ、祝島「氏本農園」～周防灘をフランス料理で楽しむ」

メニュー：放牧豚を使ったオードブル、周防灘の魚料理、放牧豚の肉料理、

光市産イチゴのデザートなどの冬の味覚

氏本農園の放牧豚と野菜を契約購入し、フランス料理に仕立て上げている東京麻布のフレンチレストラン「エピス金子」に移動し、日本茜染布の上で祝島の放牧豚と野菜を使ったお料理をいただきます。

氏本農園の放牧豚は普段のメニューにも使われています。

○サイエンスカフェ：12月12日（土）15:00～16:30、テーマ関連材料代1,000円（定員30人）

タイトル：「虫に学ぶ、虫と生きる：天然資源としての昆虫の可能性を考える」

パネラー：長島孝行氏（東京農業大学、インセクトテクノロジー）

杉本星子（京都文教大学、文化人類学、マダガスカルの野蚕）

進行：角 寿子（NPO法人アースネットワーク、染織）

地球上の生物のなかで昆虫は、その多様性においても数においても大きな割合を占めている。それにもかかわらず、わたしたちの社会で、虫はあまりにも無視されていないだろうか。むしろ駆除の対象とみなされているのではないか。しかし、虫なしに生物の生態系は成り立たない。杉本が紹介するマダガスカルは、虫と共存する社会である。村の子どもたちにとって、いくつかの虫は森の中で遊びながらつまむスナック菓子である。大人たちは野蚕の繭から糸をひく。それで作った織物は、結婚式の儀礼や祖先へ贈り物に欠かせない。長島氏は虫の染料や薬はもちろん玉虫の色の構造を活用した技術開発など昆虫資源研究の第一人者である。いっしょに、虫に秘められたさまざまな可能性について語り合いたい。

○ ゲストプロフィール

*長島孝行（ながしまたかゆき）、農学博士 東京農業大学

活動：日本野蚕学会評議委員、千年持続学会理事、生物資源協会理事

その他：科学技術庁科学技術フォーラム委員（2000年）

東京コレクション「SILKY WAY」参加（2001）、文部科学省科学技術調査委員（2002）、

文部科学省・未来を創る科学者達（日本の科学者100人）に選ばれる（2003）、

「愛・地球博 日本ゾーン」中部千年共生村・生物力監修（2005）など、

出版物：千年持続社会、自然に学ぶものづくり、昆虫テクノロジー研究と産業利用、

最近の著書は「蚊が脳梗塞を治す！昆虫能力の驚異」（講談社）など

*杉本星子（すぎもと せいこ）、専門 文化人類学、 京都文教大学人間学部文化人類学科、

南アジアとインド洋西部島嶼地域をフィールドとし、とくにインドとマダガスカルシルク織物について研究。

著書：『「女神の村」の民族誌—現代インドの文化資本としての家族・カースト・宗教』（2006年、風響社）、

『共同研究 戦後の生活記録にまなぶ—鶴見和子文庫との対話・未来への通信』（共編著、2009年、日本図書センター）

論文：「エコツーリズムの聖地マダガスカル野蚕布生産—森林資源の持続可能な開発にむけた考察」

『京都文教大学人間学部研究報告』第10集（2009年）、「近代インドのファッション：インディアン・ドレスにみるジェンダー表象」『現代南アジア5 社会・文化・ジェンダー』（2003年、東京大学出版会）、

「ファッション・マラガシ—マダガスカル・ファッションと近代的身体の形成」『京都文教大学人間学部研究報告』第4集（2001年）ほか。

○ 体験ワークショップ 12月12日（土）13:00～14:00

「植物顔料とシェラックコーティング」（参加・材料費1,000円）

*英訳協力 PEC イングリッシュスクール